

地域からこころの医療を考える

News Letter vol. 3 2021/3/29発行

アンケートにご回答いただき 誠にありがとうございました

先日、当科から送付させていただきました、研究課題「地域医療における精神医療ニーズの明確化と効果的な介入手段の探索」のアンケートにおきましては、大変多くの先生方にご回答いただきました。先生方におかれましては、日頃の臨床業務で大変ご多用の中、お時間をいただき誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在、コロナ禍の影響で残念ながらわが国では多くの研究活動が遅延、もしくは中断されています。そのような現状もあり、本研究につきましても研究期間の延長が認められることとなりました。

つきましては、まだアンケートにお答えいただいていない先生がおられましたら是非ともご回答いただければ幸いです。可能でしたら、5月連休明けの2021年5月15日頃を目安にご返送ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

自治医科大学精神医学講座 教授 須田史朗

近況報告

新型コロナウイルスに振り回された2020年度もそろそろ終わりを迎えようとしています。今年精神科に入局された先生方につきましては、一度も歓迎会等を開くことなく、自治医大での初年度の研修を終えることとなりました。学内の状況も少しずつ変わりつつあり、卒業生の先生方にはおなじみの図書館1階の西洋堂が2020年6月に、そして本館地下1階の日本旅行が2021年3月にそれぞれ閉店となりました。両店の閉店は大変残念な出来事ではございますが、やむを得ない事情があつてのことと思います。これまでの両店の活動に敬意を表します。

一方、懸案のコロナウイルスワクチンですが、県内でも医療従事者を対象とした接種がようやく始まっております。今回のワクチンはRNAワクチンであり、超低温での厳重な管理を要するため、なかなか各医療機関に均等に配備することが難しいようで、自治医大での接種状況は予定人数の1/4程度です。それでもこれを契機に様々な問題が好転されればと願っております。皆様と直接お目にかかれる日を楽しみにしております。



栃木県はイチゴの生産量全国1位です、イチゴには豊富なビタミンCと葉酸が含まれており、カロリーも控えめです。

発行
地域からこころの医療を考える会
〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学 精神医学講座 内
TEL : 0285-44-2111 (代表)
Email : psychiat@jichi.ac.jp

編集委員
福田周一、山内芳樹
編集長
須田史朗



最近の精神疾患トピック

抗精神病薬内服中の アナフィラキシーショック 出現時の対応

昨今、本邦のみならず世界中で新型コロナウイルスワクチンの集団接種が計画・実行つつあります。接種時に抗精神病薬内服中の患者さんがアナフィラキシー症状を呈することやショック状態へ至る可能性は決して高くはないものの、否定はできないものと思われます。抗精神病薬は統合失調症やせん妄の治療などに広く用いられ、精神科に限らず処方されることも少なくありません。また、アドレナリンは心肺蘇生時やアナフィラキシー、重度気管支喘息の治療などにも使用され、救急の場面で使用されることの多い薬です。

以前から、抗精神病薬とアドレナリンの併用は、相互作用により血圧低下を引き起こす可能性があるため、いかなる病態でも禁忌とされていました。抗精神病薬の投与により $\alpha 1$ 受容体が遮断された状態でアドレナリンが投与されると、 $\beta 1/2$ 受容体刺激作用が優位となってしまう、期待された昇圧作用ではなく、むしろ降圧作用が出現する可能性があることが指摘されているからです（アドレナリン反転）。しかし2108年からは、薬事・食品衛生審議会において、アナフィラキシーショック

に限り「併用禁忌」の解除が決定され、現在は各製薬企業によるアドレナリンの添付文書にも反映されています¹⁾。

したがって、抗精神病薬内服中の患者さんにおいてワクチン接種時にアナフィラキシーショックを生じた場合、アドレナリンを通常通り使用することは可能です。しかし、薬剤の相互作用による降圧作用が出現する可能性には十分注意する必要があります。ワクチン接種時にあたっては、その旨を患者さんやそのご家族へ説明しておくことが望ましいと考えられます。

なお『アナフィラキシーガイドライン』が日本アレルギー学会 (<https://www.jsaweb.jp/>) から発行されているので一般的な診断・治療の参考になるものと思われます。

自治医科大学附属病院精神科では、プライマリ・ケアを担う先生方との密接な連携を心がけております。うつ病など、精神疾患の治療で困難を感じている患者さんがおられましたら、ご紹介いただけますと幸いです。

参考文献：

1) 花澤朋樹、上條吉人：抗精神病薬とアドレナリン. 日本医事新報, 東京, pp46-51, 2018

自治医科大学附属病院精神科 受診案内

診療内容：統合失調症、うつ病、躁うつ病、パニック障害などの不安障害、摂食障害、器質性・症状性精神障害、心身症、てんかん、児童・思春期精神障害、老年期精神障害、在日外国人精神障害など
広範な精神科疾患を診察しています

診療日時：月曜～金曜 午前・午後（初診は午前、予約制）

特殊外来：もの忘れ外来（月・金）、治療抵抗性うつ病外来（金）

ポルトガル語外来（火）

いずれも完全予約制

* 急を要する診療依頼は自治医科大学附属病院病診連携室を通じてお申し込み下さい。

